

同窓会会報

高知女子大学看護学部

第2号

平成22年10月25日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



平成22年7月10日(土)、高知女子大学看護学部同窓会総会が、高新RKCホールにて開催されました。本同窓会が設立されて、初めての開催となる第1回総会は、県内外の同窓生はもとより、将来会員となる在学生も大勢参加し、総勢389名が一堂に会して盛会に取り行うことができました。

本総会は、高知女子大学看護学会との共催で開催いたしましたが、学会からは本同窓会の新たな船出に、活動支援金をはじめ、心強いサポートをいただきました。



Revolution in April, 2011

高知女子大学看護学部がパワーアップ！
伝統を守りながら発展し続ける大学として・・・

高知女子大学は、60年目を迎える平成23年4月から男女共学となります。そして、校名を「高知県立大学-University of Kochi」に変更する予定です。



主な内容

- ①同窓会総会報告
- ②同窓会役員紹介
- ③平成22年度活動計画・予算案
- ④南裕子先生 記念講演
- ⑤同窓会の発展に向けて
- ⑥同窓生の声
- ⑦恩師からのメッセージ
- ⑧看護学部の活動



同窓会総会報告

今日の医療・看護・福祉を取り巻く大きな動きの中で、日本で最初に設立された看護系大学として、本学ならびに同窓生が社会に向けて発信していくことが、今まさに求められています。

本同窓会は、同窓生相互の交流、親睦をはかり、それぞれが支え成長していく中で、サポートし合える組織として設立されました。

その第1回同窓会総会が、7月10日(土)に同窓生、在学生あわせて389名が参加して開催されました。

本総会には、お忙しい中、高知女子大学学長 山根洋右先生、高知医療センター病院長 堀見忠司先生が来賓としてご参加くださり、今後の同窓会の発展に向けて心強く、温かいお祝辞をいただきました。



- 高知女子大学看護学部同窓会
総会次第
- 開会の言葉
 - 同窓会設立にあたっての経過報告
 - 同窓会会長あいさつ
 - 来賓祝辞
 - 役員紹介
 - 議事
 - 平成22年度活動計画について
 - 平成22年度予算について
 - 看護学部長あいさつ
 - 閉会の言葉



高知女子大学学長
山根洋右 先生

大学教育そのもの、大学のあり方がいかに人材を育成していくかという戦略的展開を図っている現在、人間尊厳、健康と命を守る拠点として高知女子大学が発展しています。

『現実の中に理想を見、理想の中に現実を見る』というフランスの詩人ルイ・アラゴンの言葉のように、絶えず筋を通し、何が大事か志を貫いて、世界の隅々まで子どもたちの笑顔で満ち、人間尊厳の薫り高い社会を創っていくことが、高知女子大学同窓会の使命であると思います。

高知医療センター病院長
堀見忠司 先生

激変する医療の中で、高知女子大学看護学部が培ってきた伝統、歴史は変わることなく、さらに深化し、進歩していこうとしています。ダーウィンの進化論において、全ての生物は、力の強いものが勝つのではなく、変化するものが勝ち、生き残っていくのだと言われています。高知医療センター、高知女子大学看護学部は、今後も協働、情報交換しながら、互いに手を取り合って、高知県、日本、世界の医療に貢献していきましょう。



南裕子 会長挨拶

本日は、高知女子大学学長の山根洋右先生、高知医療センター病院長の堀見忠司先生をお迎えして、第1回同窓会総会が開催できますことを会長として大変誇りに思います。

同窓会を立ちあげるまでには、50年の歴史が必要でした。高知女子大学看護学会は、非常に早い時期に発足し、同窓会のような役割も果たしてきました。しかし、今日の医療・看護・福祉を取り巻く状況から、学会は学会としての役割を果たしていくことが必要と言えます。

私たちは、高知女子大学 しらさぎ会の会員であると同時に、看護学部の同窓生でもあります。

看護学部のこれからのさらなる発展のため、同窓会としてネットワークを構築していく上でも本同窓会の設立の意義は大きいと言えます。

今後も同窓会の成長をぜひ見守っていきましょう。



同窓会の経過・議事報告

庶務担当の森下利子氏より同窓会設立にあたっての経過・議事報告がされました。(右表参照)

報告に引き続き、役員紹介、平成22年度活動計画、予算案について報告がされ、承認されました。



日時	経過
H21.5	有志により、同窓会設立準備委員会を立ち上げる
H21.7/4	高知女子大学看護学会総会にて、「看護学部同窓会」設立の呼びかけ、および会則(案)を提示し、承認を得る
H21.8	全卒業生・修了生に対し、郵送にて同窓会設立を報告する併せて同窓会役員の自薦・他薦を呼びかける
H21.10	同窓会役員候補者を決定する
H22.3	新生・保護者に同窓会発足を説明する
H22.4	在学生に同窓会発足を説明する
H22.6	全卒業生・修了生に対し、郵送にて同窓会役員の承認を得る

看護学部長あいさつ

総会の締めくくりにあたって、本同窓会の副会長で高知女子大学看護学部長の野嶋佐由美先生より、以下のようなご挨拶がありました。



57年かけて高知女子大学看護学部同窓会ができました。看護学部として、この同窓会を立ち上げてくださったことを心から感謝いたします。そして、在学生に皆様も私たちの呼びかけに対し、賛同し、入ってくださったことに対しても感謝申し上げます。大学にいる私たちも皆様のご支援を受け、教えていただきながら、さらに発展していく道を考えていきたいと思っております。本日は、本当にありがとうございました。

同窓会役員紹介

同窓会役員

役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	南裕子	11期生	近大姫路大学
副会長	野嶋佐由美	20期生	高知女子大学看護学部
	松本女里	8期生	高知女子大学看護学会
書記	中西純子	博士1期生	愛媛県立医療技術大学
	池添志乃	34期生, 修士2期生 博士1期生	高知女子大学看護学部
会計	池田恵美子	30期生, 修士9期生	高知女子大学看護学部
	川上理子	35期生	高知女子大学看護学部
会計監査	山本雅子	23期生	高知県中央東福祉保健所
	久保田加代子	25期生	高知医療センター看護局
庶務	梶原和歌	10期生	近森病院看護部
	森下利子	19期生	高知女子大学看護学部
	坂本章子	修士7期生	高知女子大学看護学会



同窓会の活動について、みんなからのアイデアを募集しゆうき、聞かせてよお！待ちゆうきね！！

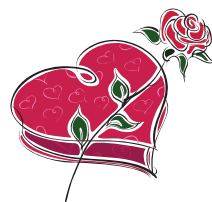
今年から3年間
お世話になります！！
どうぞよろしく
お願いします。



平成22年度 活動計画

同窓会の活動内容として、次の4点について提案があり、承認されました。

1. 総会開催
2. 記念講演の開催
3. 会報第1号、第2号の発行
4. ホームページの充実



平成22年度 予算案

(平成22年 4月 1日から平成23年 3月 31日)

○収入の部

費 目	平成22年度予算	備 考
寄付金	1,800,000	
活動支援金	2,000,000	高知女子大学看護学会から
在学生からの同窓会費	3,675,000	
合計	7,475,000	

○支出の部

費 目	平成22年度予算	備 考
同窓会会報	400,000	同窓会会報印刷代(2回分)
同窓会開催	500,000	会場費・看板・チラシ代 他
事務費	155,000	封筒、宛名シール等事務用品代
報償費	60,000	会報発送作業等アルバイト料
通信費	216,000	会報発送費
ホームページ開設	200,000	ホームページ作成・管理費
予備費	5,944,000	在学生からの徴収分は卒業時まで使用しないこととする
合計	7,475,000	

総会参加・ 大学院生の声



鎌田晃子(看護学研究科12期生)

第1回看護学部同窓会においては、自らを律する良い機会となりました。南先生の記念講演において、グローバルな視点から看護を見つめ直し、現在の医療危機に対する専門職としての社会的責務を考えさせられました。先輩方のリレートークでは、保健・医療・看護の組織的連携や様々な効果的なケアに触れ、看護の創造性を教えて頂きました。今後も同窓会を通じて、多くの刺激を受け、新たな自分へと磨きをかけていきたいと思えます。

有田直子(健康生科学研究科)

高知女子大学に10年ぶりに学生として戻ってきました。今回、高知女子大学同窓会総会に参加できたことを大変うれしく思い、歴史を築いてこられた先輩方に感謝申し上げます。

また、同窓会会長南裕子先生の御講演を聴かせていただくという大変貴重な機会も得ることができました。テーマである看護職の役割拡大については、私たちが今まさに取り組むべき課題であり、今後の方向性を教えていただきました。この先、看護師として自分は何をすべきかがみえてきたように思いました。

南裕子先生 記念講演

このたび、看護学部同窓会設立を記念して、近大姫路大学学長であり、本同窓会会長である南裕子先生に記念講演をお願いいたしました。

講演は、“**なぜいま、看護職の役割拡大か？**”という、今まさにホットな話題をテーマに、お話をいただきました。

南先生のご講演の要旨をご紹介します。



南裕子先生
(近大姫路大学学長)

今や、これまで経験したことのないような大きな変革の時代を迎えています。看護職は、看護界の中だけでなく、外に飛び出して考えていかなければならない状況に置かれており、ここで踏み間違うととんでもないことになるため、社会に向かって勇氣ある発言をしていかなければならないと考えます。

21世紀の医療に向けての変革として、3つの視点があると考えます。第一には、ホリスティックなものの方やアプローチをどう統合させていくかということ、第二には医療を受ける側と提供する側が共に納得できる安全と安心の保障があること、第三にはどこでもいいキュア(cure)、いいケア(care)が受けられるという医療・看護の質の保証があることであり、これらの変革への対応が求められています。

そして医療の場においては、入院期間のさらなる短縮やかつては、医師や看護師にしかできなかったことが一般の人や他職種でも行えるようになったこと、また医療機器や技術の革新など様々な変化が起きています。

さらに、医療機関を利用する人も患者だけでなく、半健常者や健常者の割合が増えてくる等の変化、医療者と利用者の関係性の変化が起っています。また、電子カルテやEPA(経済連携協定)等に見られるヘルス問題のグローバル化、パートナーシップの連携型チーム医療という発想、看護教育の大学・大学院化という様々な変化が看護職の役割拡大の背景にあります。こうした変化の中で、我々看護職は、何をしなければならぬかを考え、役割拡大を進めていく必要があります。

役割拡大の論議の発端は医師不足から来ているため、キュアの部分の役割をどれだけ看護職が取っていかれるかということが起点になっていましたが、キュアの側面の拡大だけではなく、キュアとケアが融合したところでの役割拡大を考えていくこと、そして患者の安全性などに十分留意しながら、看護職が自立的に判断できる機会を拡大し、実施し得る行為の範囲を拡大していくことが重要であると考えます。

看護職の役割拡大の論議には、チーム医療のキーパーソンとして看護職が位置づけられ、看護教育の水準が高まったことがあります。さらに看護系大学院の整備が拡大したこと、一定の分野における専門的能力を備えた看護師が急速に育成されつつあることが評価されたものと言えます。こうした看護界の歴史の中にあって、高知女子大学の人的財産は世界に誇り得るものであり、今後の看護職の役割拡大に大いに力を発揮していくと考えます。

“臨床を大切にしている”という言葉は、臨床でもがいている自分にはとてもあたたかい言葉に思えた。臨床をしているとどんどん政治も変わり、保健医療に求められるものが変わってきていると実感する。柔軟に対応したいと思う中で、凝り固まっている自分もいる。変化していくには何をすればいいのか、先生の話聞いて思考が少し整理されたと思います。

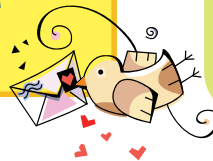
看護の役割拡大の方向性を社会の動きや医療界の動き、世界の動きと関連づけて、わかりやすくお話しいただき、勉強になりました。

世界の流れも踏まえた看護のあり方や役割について、知り得ていなかった現状や情報を知ることができました。

「看護職の役割拡大」を論じる中では、裁量権の拡大、実地可能な医行為の範囲拡大が取り上げられがちだが、看護独自のケア能力を高めていくことの重要性を忘れてはならないと、改めて感じることができました。

看護がこれから担うべき役割の重さを痛感するとともに、担っていくのは自分たちなんだと感じました。

南先生の講演 を聴いて



グローバルな視点での今後の看護職のあり様について教えて頂きました。

世界の状況、日本の状況がわかり、参考になりました。先生ご自身の知見の広さ、深さを改めて感激しました。

看護が今考えるべきことを将来の展望を踏まえた視点でお話下さり、これから私たちが看護をする上で、様々な視点で考えさせられました。

先生の話し方が患者の立場で言うとお世話になりたいと思う話し方でした。今までの大切なことを壊さず、新しいことを取り入れて常に前進されている方で、先生のような方に教えられて毎年看護師が育っていると、他の職業の人よりも尊敬するのではと思います。

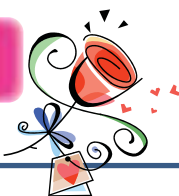
特定看護師と専門看護師の違いが明確になりました。



先生のグローバルな視点とバイタリティに刺激を受け、元気もらっています。学生時代の講義を懐かしく思い出しました。

同窓会の発展に向けて

同窓生の皆様からメッセージを寄せていただきました。



野島幸代(1期生)



思い起こせば1955年3月、私は高知女子大学家政学部衛生看護学科の1期生として卒業しました。入学当初、10名だった学生は1年後には6名となり、4年後に日本初の看護学士の卒業証書を受け取ったものは3名でした。この3名は高校の養護教諭と臨床看護婦(師)としてそれぞれに勤めを終えました。私たち1期生は後輩から「ご先祖さま」と呼ばれて苦笑しますが、日本初の4年制大学課程による看護教育機関を高知女子大学に設立させた諸先生方、中でも今は亡き和井兼尾先生のご尽力がしのばれます。創立以来60年を迎えた今も各期の卒業生が大学に残り、創立時の意志を受け継いで教育に尽力されていることに敬意を表します。現在は、看護学部として独立し大学院も設置され、教育内容も飛躍的に発展しています。卒業生は今年で1555人に達し多岐分野に渡って活躍され、社会貢献に大きな役割を果たしておられます。この時期に看護学部の同窓会が設立されたことは必然的でもあり、1期生として喜ばしく感じています。同窓生の皆さんは同じ志を持って入学してきた仲間ですから、末長く連絡を取り合い親睦と研鑽の場として同窓会を育てていってほしいと思います。

佐藤美穂子(18期生) 財団法人日本訪問看護振興財団 常務理事

振り返ると私の転機には、いつも母校の先生や先輩の助言・支援があったように思います。「高知女子大学出身」を口にすると、多くの先輩・後輩がそれぞれの道で輝いていることに誇りを覚えます。40年前、訪問看護がまだ制度にもなっていない頃、地域の看護活動に関心をもっていた私に「訪問看護が必要になるから、やってみない」と後押しされたのは故和井兼尾先生でした。それ以来、ずっと訪問看護を追っかけてきました。欧米諸国に出かけて、在宅看護分野や高齢者施設ケアの看護師達の活動を学んで、日本でもこのような制度をつくりたいと努めてきました。同窓生の皆様、母校で培ったパイオニア精神で、これからの在宅看護を引き受けて下さいませんか。



中野綾美(27期生) 高知女子大学看護学部 教授



高知女子大学看護学部では、同級生との繋がり、先輩・後輩との繋がり大切にすることが、脈々と時代を超えて受け継がれていると思います。例えば、就職のことで先輩に相談したいと希望する在学生には、1年目の卒業生であっても「少しでも役に立てば」と相談ののってくださいます。病院見学の後輩が来るとわかると、「私も、将来のことで悩んでいる時に先輩に時間をつくっていただきました」と、勤務が終わった後に後輩と話す時間をつくってくださいます。このように今まで日常的に築いてきた同窓生の繋がりを、同窓会として組織化することができました。同窓会の活動に積極的に参加し、新たなエネルギーを生み出すことのできる同窓会づくりをしていきましょう。

北村真由美(34期生) 高知市保健所 保健師

高知女子大学看護学部同窓会の設立、おめでとうございます。私は現在、地元高知で保健師として働いています。今年7月の同窓会発足記念講演と学会に出席し、歴代の諸先輩方が様々な分野で活躍し日本の看護界をリードされてきたお話を聞き、改めて高知女子大学看護学部の歴史の深さと偉大さを感じました。来年度からの男女共学化により、看護学部は更に発展を続け、同窓生の層も厚くなっていくことと思います。今後、同窓会を通して全国の様々な分野で活躍している同窓生の情報を得たり交流を深められることは、良い刺激になりますしネットワークも広がり、同窓生にとってはとても心強い存在になると思います。同窓会の発展に期待しています。



星川理恵(看護学研究科9期生) 高知大学医学部付属病院 家族支援専門看護師



同窓会に参加して、激変する医療の中で、伝統と文化の中で培われた力を結集し、今なお変化し進化を遂げていこうとする強靱なネットワークに支えられながら、未来に向かって歩めることに大変心強さを感じました。今後は、チーム医療のキーパーソンとしての看護職の役割を自覚し、ケアとケアが融合したところでの役割拡大の実現、看護職が自立的に判断できる機会を拓き、社会に向かって勇気ある発言をしていくことに微力ながら努めていきたいと思っています。

同窓生's Voice



設立することができてよかったと思います。これから様々な活動をしていくことができればと思います

とても嬉しいことだと思います。設立まで50年以上かかったことにもびっくりしました

どのような大学へとになっていくのか、卒業生として知ることのできる同窓会へとなってもらいたいです

同窓会としての活動で参加できれば、参加していきたいと思います

よい伝統は継承し、新しい学部的发展に寄与できることを願っています

発足おめでとうございます。高知女子大学の大切な伝統を守って行って下さる会と思っています

**個人は組織を通じて
生かされる！**

「同窓会」が全国各地に広がればいいですね。お食事会や卒業生の職場見学ツアー(?!?)のようなものを企画してはいかがでしょうか？

職場にも後輩が増えており、同窓会が発足し、皆さんがどのような活躍をされているかが、さらにわかるようになると思うので嬉しいです

学部生の声

池上示帆(看護学科1回生)

私は、今回「看護学部同窓会総会」に初めて参加し、自分にとってプラスとなったことが非常に多かったので、出席できてとてもよかったですと思います。特に講演をしてくださった南先生のお話は、これからの看護界を担っていく私たちが、どのような姿勢で看護に臨んでいく必要があるか、そのための幅広い視野をもつことの重要性について考えさせられました。次回はより多くのことを吸収できるように、看護に対する自分なりの考えや、意見をもって参加したいと思います。

後藤麻友(看護学科2回生)

私が本学看護学部に入學して、早一年半が過ぎました。この短い一年半という間にも、一学年あたりの学生定員数は80人となり、また、来年度からは男女共学となるなど、大きな変化の波がありました。そのような中、今回同窓会が設立された事は、これから更に長い歴史を築いていく上で大変意味のあるものになったのではないかと思います。変化の節目の学年として、伝統を守り新しい時代を切り開いていく事の責任を痛感した一日となりました。

山本ゆい(看護学科3回生)

記念すべき第1回の総会に参加させていただきました。総会では同窓会設立の経緯を聞き、社会情勢の変化と共に、看護の発展を視野に入れた変革を行ってきたことがよく分かりました。南同窓会長のご講演では、チーム医療における看護師の裁量権拡大の必要性や課題を分かりやすく伝えていただき、大変勉強になりました。来年からの校名変更、男女共学化をうけ、同窓会は先輩方と新しい卒業生を繋げる貴重な場になると感じました。私もこの繋がりを大切に、将来は会に貢献したいと気の引き締まる会でした。

安藤瑛梨(看護学科4回生)

高知女子大学看護学部同窓会総会に参加させていただき、改めて先輩方が築き上げてこられた伝統の深さと、看護学部の学生であることの誇りを感じました。南先生の講演を聞き、私は4年間看護において大切なことを学んできましたが、それは本当に基礎であり、今は目の前の自分の課題に精一杯でも、この先社会の動きや医療において求められる看護の役割が拡大していく中で、広い視点で看護の専門性を考えられるよう学んでいきたいと感じました。

恩師からのメッセージ



木場富喜先生
鹿児島純心女子大学
名誉教授

思い出は楽しく

月日の流れは早いもので、私が高知女子大学に在職していたのは、約40年前の13年間でした。大学のすぐ近くに部屋を借りていましたので、学生達もよく遊びに来てくれました。私が夏休みなどで家を空ける時、学生は合宿する所がないので留守中部屋を貸してくれと言うので承知しました。何日泊ったかはわかりませんが、帰ってみると米櫃は空っぽになっていて、食べるものが何もなかったので外に食べに出たことなどを懐かしく思い出しました。

言うまでもなく、日本で最初の看護の大学課程であり、学生は勿論のこと教師にとっても試行錯誤の連続で、多くの問題に直面し、今考えると、学生達には本当に申し訳ないことであったと悔いが残ります。しかし学生達は勇気があり積極的で、教師をよく動かしてくれたので、前に進むことができたのだと思っています。しかし何かある毎に、看護学科創設の功労者であった和井兼尾先生の家で夕食をいただきながら、2人で遅くまで話し合ったものです。当時は研究室もなく、私は階段の下の物置に隙間を作り、時々そこで講義の準備をしたこともありました。

現在、高知女子大学は校舎も立派になり、多くの卒業生が国内は勿論のこと、世界の場で活躍していることを何よりもうれしく感じています。在職中は何もできなかったけれども、今後の益々の発展をお祈りさせていただけることを大変幸せに思っております。

同窓生の絆と重み

今年8月に高知女子大学看護学部同窓会が発足して、会報第2号の執筆をとのお話をいただきました時、つくづく時の流れという重みを感じています(年齢のせいでしょうか)。

私は永国寺キャンパスで学び、保健師・看護師として実践経験を経て、再び永国寺や池キャンパスで学生さんと共に学ぶ教員という立場で25年間の歳月を過ごしました。定年を迎えた平成14年3月「晴耕雨読の生活か」「もう少し社会貢献しようか」の両者を選ぶ岐路に立ちましたが、日本看護協会での仕事をさせていただきました。このことは私にとって、大変 学びの多い経験となりました。今、再び短期大学において看護基礎教育に関わっております。自然体の中に身を任せていますと、このような生き方になっています。

環境の違った職場・立場で今日まで特に感じてきたことは、「同窓生の絆の重み」でした。直接お顔を存知あげない卒業生の方も多くいますが、お付き合いするうちに“通じ合える”“わかりあえる”“安心感がある”“緊張感がとれていく”—これって素晴らしいことだと思います。このことは看護学科創設時の教育理念が、今日まで脈々として受け継がれてきたことの証ではないでしょうか。

永国寺キャンパスから池キャンパスへの今日の変貌を目のあたりにし隔世の感があります。ますます発展していくことを願っています。



山崎美恵子先生

高知女子大学
名誉教授

現 高知学園短期
大学看護学科
看護学科長(教授)

看護学部の活動

～地域に開かれた大学として～



オープンキャンパス

8月1日日曜日に高知女子大学オープンキャンパスが開催されました。当日はたくさん的高校生、保護者や引率の先生にご来場いただきました。高校生の参加者が244人と、昨年を大幅に上回りました。高知女子大学看護学部は本年度から定員数が80人に増加し、更に来年度は男女共学となります。伝統を重んじ、更にパワーアップしていく高知女子大学看護学部を体感して頂けたのではないのでしょうか。



野嶋学部長が大学の紹介を行いました

基礎看護実習室では 車イス、血圧・体脂肪測定、心臓マッサージ・・・色々な体験コーナーを設けました



入浴リフトの使い方をデモンストレーションしました

妊産婦体験で新生児のおむつ交換



特別講義

★H22年度の最新実践看護講座にたくさんの方のご参加をいただきました。

高知女子大学看護学部では、今年も最新の看護実践、先駆的な看護実践・研究を行っているエキスパートナースを講師に迎え、地域の看護職の皆様、県内の看護学生の皆さまにも聴講していただけるよう、本講座を公開しています。今年度は、4名の先生方にご講演をいただきました。



テーマ	講師
長期人工呼吸管理を必要とする子どもと家族のQOL向上への看護	鈴木真知子先生 (京都大学医学部人間健康科学科看護学専攻)
高齢者の有終の美を飾るケアー最期まで人間らしさの保証ー	桑田美代子先生(青梅慶友病院老人看護CNS)
医療事故とリスクマネジメントの現状と課題	嶋森好子先生(社団法人東京都看護協会)
看護とリフレクション	田村由美先生(神戸大学医学部保健学科)

★看護学科(32期生)卒業生が母校の大学院で特別講義を行いました。

平成22年度の看護学研究科がん看護学領域特別講義が7月30日(金)に開催されました。今回は静岡県立静岡がんセンターのがん相談支援センターで、相談業務を中心にご活躍されている看護学科32期生の濱田由香さんをお招きし、「がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの相談業務ー在宅支援・転院支援担当者としての活動と課題を主にー」のテーマで、講義をしていただきました。

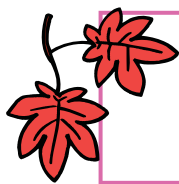


看護相談室



今年も10領域(家族看護学、精神看護学、がん看護学、慢性看護学、小児看護学、母性・助産看護学、地域看護学、老人看護学、在宅看護学、看護管理学)で看護相談室を開設しています。様々な臨床現場の方たちとの交流がなされ、地域とのネットワークが看護学部の新たな知につながります。

寄付のお願い



同窓会の寄付については、いつでも受けております。同窓生の皆様には寄付のご協力をどうかよろしくお願いいたします。なお、寄付金は、同封の振込用紙でお願いします。ホームページでもご覧いただけます。

寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。ありがとうございました。

(敬称略) 平成22年9月30日現在

正会員

1期生 野島 幸代	5期生 佐々木 正子	18期生 関谷 由美子	24期生 橋本 文子	30期生 豊田 邦江
2期生 寺田 涼江	10期生 梶原 和歌 津田 紀子	19期生 岡谷 恵子	26期生 宮上 多加子	32期生 宮岡 勤子
3期生 菊井 和子	15期生 田中 芙美江 新谷 ミサヲ	20期生 山崎 マリ	28期生 小池 真理子	55期生 安藤 千尋
4期生 西岡 美智子				



訃報

山崎近衛先生が、8月3日にご逝去されました。96歳。山崎先生は、昭和32年から昭和52年まで高知女子大学家政学部衛生看護科の時代から看護学科に変更するまでの20年間、多くの学生の教育、指導にあたられました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



編集後記
今号では、第一回同窓会総会を中心に編集いたしました。学会と共催での総会、記念講演を成功裏に終えることができ、ホッとしております。同窓会参加者の皆様からは、素敵な声を多く寄せていただきました。また恩師からのメッセージでは、今なお現役で看護教育にかかわっておられる両先生のいつまでも若々しいお顔とともに、心暖まるメッセージを皆様にお届けすることができ、大変嬉しく思っています。これから多くの同窓生のご活躍の様子や声を皆様に紹介していきたいと考えています。どうかご協力をよろしくお願いいたします。(森下・池添)

事務局

〒781-8515 高知市池2751-1 高知女子大学看護学部
Fax: 088-847-8750

ホームページアドレス

高知女子大学
<http://www.kochi-wu.ac.jp/>

高知女子大学看護学部
<http://www.kochi-wu.ac.jp/~kango/>